

みやけの風

第 220 号

平成 17 年 (2005 年) 4 月 23 日 (土) 発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸 1-1 セントラルプラザ 10 階
 東京ボランティア・市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

三宅島支援センターが島内で活動を始めてから、2ヶ月が経とうとしています。この間、ボランティアたちは慣れない環境の中で、失敗をしたり、島の方々にご迷惑をかけたこと、したことあったかもしれません。そんな私たちを暖かいまなざしで迎えてくれ、期待をかけてくださっていることに感謝しつつ、出来ることはほんの小さなことですが、精一杯努力してまいります。今後とも赤帽と赤いのぼりの支援センターをよろしく願いいたします。

みんなの声

より良い復興のために

主人の「島で！」との一言に、多くの困難を抱えたまま、まだ足場で四方を囲まれた我が家に。早いもので、2ヶ月が過ぎようとしています。

枯れ木の梅の枝に、「ケッキョ、ケキョ」。『ベッド生活』だけだった主人の症状が日に日に快方に。思い切って早々に帰島してよかったです。

でも予期しなかった問題も。これから帰島なさる方々の参考になればと願って、アドバイスを書かせていただきます。

まず、引越し前にはどなたも迷われることですが、荷造り 避難先 港 三宅島 自宅 荷解き。遠慮せずに少なくとも3社くらいに見積もりを出してもらい、検討なさることです。どの業者も同条件のはずなのに、その差が非常に大きいことです。

荷造りもご自分で出来る方は良いのですが、高齢者、障害者の方々は業者に任されているのですが、実に手早く数人でして下さいますので、前もってしっかり区分しておく、帰宅後の荷解きの際にてんてこ舞いでならないですみますよ。 (神着 島下の住民)

コールボランティア三宅島へ

皆さまこんにちは、お元気ですか？みやけふれあいコールです。花冷えの頃、くれぐれ

もお身体お大切にお過ごしください。

先日、三宅島へ赤い帽子のボランティア活動に行ってきました。体力に自信がなかったのですが、事前研修会を受け「自分にも役立つことがあるかもしれない」の思いで参加しました。

第1日目：乗船リーダーの下、6名で10時30分出航、一路三宅島へ。

第2日目：早朝5時、三池港着。ガス臭もなく、海上も『ベタナギ』である。村営バスに乗り込み、すぐに一番の被害の被害を受けた三池の高濃度地区を通過。ボランティアの皆も言葉少なく涙する者もいた。宿舎『伊豆老人福祉館』着。出迎えを受け、仮眠。朝食時、本日帰郷する仲間の挨拶、私たち6名の自己紹介。各班別に活動内容の説明、準備体操、道具確認後、それぞれの依頼自宅へ車で移動。もちろん、赤帽、IDカード、ガスマスクは常に携帯。作業内容は、主にカヤ刈り、降灰除去、引越し荷物の搬入。

ここで本日到着組は午後より休養。といっても、この間、三宅島滞在の心得や活動の諸注意など、説明を受ける。4時作業終了。その後クリーンハウスでの入浴、夕食。この間にもリーダーはスタッフ会議。夕食後今日の活動報告を行う。11時全館消灯。何よりも、女子部屋の前の大島桜にメジロが花をついばむ姿に心が和む。

第4日目：早朝から島流に言うと『しけ降

来週 4 月 30 日は、みやけの風を一回お休みさせていただきます。

三宅島への帰島で電話番号が変わられる方は、大変お手数ですが、みやけの風の新しい送信先を事務局までお知らせください。 TEL:03-3260-7573 FAX:03-5229-1646

り』である。上原センター長はじめ、新メンバー到着。朝のミーティングで上原さんの有意義な話に耳を傾けながら、この4年間を思い出して涙が出てしまった。言葉の一つ一つに勇気付けられ、雰囲気や和むのは何故だろう？ 話術？ それとも、やはり心の底からの思いやりと解釈させていただいた。

今日の私の仕事は、いつもお世話してくださる方が急用とのことで、帰京するボランティアの方たちの島内一周の案内を代役する。噴火後一周するのは自分でも初めてなので、状況が分かり良かった。

途中クサヤ好きの方がおみやげにと販売店へ寄る。避難中はずっと他の島で『タレ』を保護していたとのこと。店主の表情に、厳しさの中にも柔らかさが見えた。「再開出来てよかったですね」と思わず声をかけた。

第6日目：午後から帰島されたお宅へスタッフと声かけに。そんな中で『帰島して元気回復した方』また逆に『少々弱くなったかな？の方』と、共に出てくる言葉は、「やっぱり島はいいな。これで落ち着いたよ」聞いた自分たちも一安心。まだまだ現実には厳しいけ

れどガンバリましょう。

最終日：私たち帰京メンバーで宿舎の清掃、片付け。スタッフに見送られ三池港へ。ちょうど三宅村長さんもいて一緒に記念撮影。メンバーの3人は甲板へ出て、トビウオが空中を飛ぶ様子を見て感激していた。今年はトビウオが豊漁とか・・・。

今回の参加では、前半は好スタートだったが、後半やはり皆さんにご迷惑をかけてしまいました。絶えず火山ガス情報が行政無線で放送されるので、夜中は特に睡眠不足になりがちだったが、現状では仕方がないのかなの思いです。

参加されていた方の一人が、「畑を耕すことも大切だが、心を耕すことがもっと大事だ」と言っていたのが印象に残りました。一人ひとりの力も集結すれば、こんなにも大きな実が実るのだということ。そして素晴らしいお仲間に出会え、感謝の気持ちでいっぱいです。

『一期一会』。ご支援いただいた皆様様に心より本当に『ありがとう』を申し上げます。良い経験をさせていただき、エネルギー源になりました。(越谷 阿古 若木 恵美子)

(財) 鼓童文化財団 三宅島募金に寄せられたメッセージ

いつも三宅島災害・東京ボランティア支援センターを応援してくださっている鼓童文化財団の皆さんより、『帰島支援ボランティア事業』へと、ご寄付をいただきました。一緒に沢山寄せてくださったメッセージの一部をご紹介します。

三宅島の島民の皆様が一日も早く平穏な生活を取り戻されますようお祈り申し上げます。

東京都北区 佐々木愛さん

日々の生活、大変なことと思います。娘が学生の頃お世話になりましたこと、忘れられません。どうぞお身体を大切にお過ごし下さい。

さいたま市 本居麗子さん

10年ほど前に、木崎神社で三宅太鼓をたたかせて頂いたときの事が忘れられません。薄闇、ざわめき、汗と樹木の香り・・・。みんなが集う祭りがにぎやかに開催される時を待っています。家の近くの大山団地におられた方々も元気で帰島してらっしゃるのでしょうか？「三宅太鼓」を演奏する度に、想いを込めて、早く日常の普通の暮らしができるように祈っております。

立川市 岡部由美子さん

天下の楽園のような御地三宅島の異変を心より痛みます。お住みになられるお方様の御心の痛みをお察ししつつ一日も早く努力をもって復興のご成功を拝見するのを待っています。

京都市右京区 伊庭文子さん

鼓童を通じて三宅太鼓を知りファンになりました。三宅島の皆さん頑張って下さい。

千葉県野田市 駒橋さん

みな様のお役に少しでもたてればいいと思います。一日でも早く安心できる生活がおくれることを願っています。

千葉市 植草学園文化女子高等学校一年B組